



# アートと 介護・福祉 の勉強会 報告書

人と地域と制度をつなぐ、ソーシャルなアートプロジェクトを学ぶ

2024年2月16日(金)

第1部 19:00~20:30

第2部 20:30~21:00

主催 地域福祉におけるソーシャルネットワーク(SNCD)

後援 日本地域福祉学会関東甲信越静部会・東京社会福祉士会・埼玉県社会福祉士会

協力 日本介護福祉学会・日本ソーシャル・イノベーション学会・東京都社会福祉協議会

企画 吉田武司・青木彬・堀崇樹



---

## 報告書の発行にあたって

---

「アートは特別で、敷居が高い」。

そう感じる人は少なくないのではないのでしょうか。専門的な教育や修練の上にはじめて成立する表現や作品。私たちは美術館やホールでその稀有な仕事にふれ、非日常の時間を愉しみます。

一方で「誰でもアーティスト」という考え方もあります。絵を書いたり、歌ったり、踊ったり。民謡や祭りなど、日常と非日常が混じり合った生活者の世界です。

門外漢ではありますが、どちらもアートではないかと思えます。アートが人間や生活の営みとともにあるものであるならば。

介護や福祉の支援は「生活」に関心を寄せるものですが、近年は効率と生産性という規準から、「生活」の理解が身体的な機能維持や最低限の衣食住の確保に限定されていく向きもあるようです。

無駄を省いたオペレーションが対象とする「生活」には、遊びがありません。余白をそぎ落とし極小化した「生活」を対象とする支援の姿はおそらく、実務者の初心と乖離しています。そのずれは、実務者だけでなく介護・福祉の世界全体に、鬱屈した、名状しがたい閉塞感のようなものを生じさせてはいないのでしょうか。

私はアートが、こうした状況を打ち砕き、より開発的でみずみずしい自立支援、生活支援のイノベーションに向けたパートナーになりうるのではないかと期待しています。

今回、幸運にも《アートと介護・福祉の交わり》に関心を持つ多くの皆様と同じ時間を共有することができました。ご参加いただいた皆様、周知等のご協力、ご支援をいただいた諸団体の皆様にお礼申し上げます。

この報告書が今後、皆様の現場・職場で、《アートと介護・福祉の協業》について話し合うきっかけになれば幸いです。

共同企画者を代表して  
地域福祉におけるソーシャルネットワーク 堀 崇樹

---

## 企画の背景とねらい

---

美術館やホールを飛び出し、地域や介護・福祉施設で実施される芸術実践が注目されています。住民および医療・福祉サービス利用者の生活の質の向上に寄与する芸術の特質は、世界保健機関などでも大きく取り上げられるようになってきました。

芸術・福祉連携の実践例は、障害・児童分野に多く、高齢者介護や地域福祉においても決して少なくありません。また、引きこもり支援など、今後の参加支援という観点からも一層期待される領域ではないかと思えます。しかし、こうした実践は介護・福祉の制度的な枠組みで議論されることが少なく、学術研究においても蓄積が乏しいのが現状です。

一方、文化・芸術領域では、2017年に「文化芸術基本法」が改正され、福祉を含む多分野との協働推進が明記されたほか、2018年には「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行され、様々なフィールドで実践が積み重ねられています。

この勉強会は、こうした流れのなかで、人と人、人と地域、制度と制度をつなぐファクターとして、芸術・福祉の連携に焦点をあて、両セクターの対話の端緒としたいと考えて企画しました。

## 勉強会の概要

日時 2024年2月16日(金)  
《第1部》19時00分～20時30分  
《第2部》20時30分～21時00分  
場所 Zoomミーティング  
対象 芸術及び介護・福祉の従事者・研究者  
参加費 無料  
主催 地域福祉におけるソーシャルネットワーク(SNCD)  
後援 埼玉県社会福祉士会  
東京社会福祉士会  
日本地域福祉学会関東甲信越静部会  
協力 日本介護福祉学会  
日本ソーシャル・イノベーション学会  
東京都社会福祉協議会  
企画 吉田武司・青木彬・堀崇樹

### 内容

#### 《第1部》

開催にあたって

堀 崇樹 SNCD／社会福祉法人足立区社会福祉協議会

#### (1) アートプロジェクトの紹介

①「アートによる縁結び すみだ川アートラウンドを事例として」

吉田 武司氏 NPO法人音まち計画／東京藝術大学

②「キュレーターが介護の現場に出会って考えたこと」

青木 彬氏 インディペンデント・キュレーター

#### (2) ディスカッション

[介護福祉] 柘崎京子氏 帝京科学大学／日本介護福祉学会

[地域福祉] 渡辺大輔氏 社会福祉法人台東区社会福祉協議会

[公衆衛生] 野口泰司氏 University College London

[芸術文化] 岡野恵未子氏 アーツカウンシル東京

コーディネーター 堀 崇樹

#### 《第2部》情報交換の時間

事例紹介① 石原朋香氏 こもごも団

事例紹介② 松橋和也氏 就労継続支援B型BaseCamp

事例紹介③ 小堀幸子氏 NPO法人ちいきの学校デザイン室

---

## 参加者

(申込フォームから)

---

申込者数	139人
この勉強会を知ったきっかけ	① 主催者・登壇者からの案内 60人 ② 後援団体からの案内 29人 -日本地域福祉学会関東甲信越静岡部会 7人 -東京社会福祉士会 0人 -埼玉県社会福祉士会 22人 ③ 周知協力団体からの案内 17人 -日本介護福祉学会 12人 -日本ソーシャル・イノベーション学会 3人 -東京都社会福祉協議会 2人 ④ その他 33人 (SNS、大学の掲示、シルバー新報など)
活動領域	① 介護・福祉 86人 ② アート 28人 ③ その他 25人 (教育、デザイン、家族介護者、医療、一般企業など)
お住まい	18都道府県、1市 東京都43、埼玉県37、神奈川県14、千葉県8、宮崎県5、 大阪府5、新潟県5、兵庫県4、茨城県3、福岡県3、愛媛県2、 沖縄県2、静岡県1、広島県1、愛知県1、香川県1、熊本県1、 北海道1、ロンドン1、その他1

---

## 満足度

---

とても良かった	34人 (50.7%)
良かった	30人 (44.8%)
あまり良くなかった	3人 (4.4%)
良くなかった	0人 (0.0%)

---

## 芸術・福祉連携への期待

「芸術・福祉連携のどういうところに期待をお持ちですか。」

への回答（申込フォーム）

---

### [介護・福祉]の方々からいただいた回答

1. 介護福祉におけるアクティビティ・サービス
2. 新たな視点を発見できるように思う。
3. うまく伝えきれない感情や声を形にするプロセスに、福祉だからこそそのサポート力を活かすことができる。また、それらを公共に発信することができる。
4. 就労困難者が芸術活動で、新たな就労機会獲得できないかと考えます。
5. アートの力で社会は変えられる、アートとソーシャルインクルージョンの可能性
6. 当法人では音楽と福祉の関係から音楽フェスを行いました。こうした活動を通じて地域の皆さんとの関係性構築が大切であることを感じました。芸術と福祉についても様々な連携の可能性があると感じております。
7. 芸術・福祉連携を行うことで人と社会を繋げ、利用者の生活の質を向上できる可能性があるかと期待しております。
8. アートは高齢者と若者をつなぐ力です。
9. 福祉と芸術をどのようにつなげるかを期待しています。
10. 創造やものづくりは介護をどう拓くのか、可能性や期待
11. 多様なあり方を模索し合うことに期待しています。
12. 学校卒業後の障害者の文化芸術活動について
13. アートのもつケア関係を反転させる力
14. ビジネス・ソーシャルインクルージョン・交流
15. 脳トレ推進
16. ターミナルケア
17. 地域での活動について
18. 当事者の社会的役割と活躍
19. 人生の豊かさ
20. 当会では障害団体を中心にアートを活用した取組みを進めています。今後の参考にしたいです。
21. 公私ともにゆるく芸術に関心をもってきたので、その興味をもう一步深められたらと思っています。芸術といっても音楽もあれば絵もあり、鑑賞者としても発表者としても関われる、多様な表現が認められるのは魅力です。
22. アートと地域がつながると、地域共生社会の実現につながると思います。それが、広域に見て福祉につながっていくはずです。
23. ウェルビーイング
24. エンパワメント

25. 18年間地域にて福祉用具レンタルの会社を運営しています。地域活動として西新井いきいきサロン（高齢者の方や子育て世代の居場所づくりを6年ほど月に一回開催しています。年に一回、地域包括支援センターの職員の方と近隣の病院の方と近所の公園で多世代交流まつりも行っています。その時に東京藝術大学の学生の方に演奏してもらったり、公園前のカフェでアート作品を飾ったりしています。多世代を巻き込むにはアートは必要と思っているので、勉強になると思い応募しました。
26. Well-beingを目指すうえで、様々な取り組みが必要かと思いますが、アートによるアプローチも欠かすことができない重要な側面だと思います。特に今回の趣旨からアートからアウトリーチしていく姿勢を感じられとても興味を持っています。
27. 芸術と福祉には、人間のwell-beingを考える時、「非貨幣的価値」を追求するという点で《共通性》があると思います。他方、介護・福祉の制度が「生存の基盤」に集中していく中で、芸術には人それぞれの生活の歴史に根差した感情やこだわりを「表現」し、「社会参加」に結び付けるサポートが可能だという点で《補完性》があると思います。この福祉と芸術の《補完性》の可能性を切り開いていきたいと考えています。
28. 表現方法、エンパワメント
29. つながりづくり
30. アートが人をつなぎ、表現することを通じて人をエンパワー、解放する力。全ての人がアートに参加できる機会づくり
31. こころが開いて楽しく繋がりそうなところ。考えるより感じて、思わず何か動きそうなところ。
32. 当事者の表現、コミュニケーションツール、地域や人との関り、社会参加の向上等です。芸術と福祉がの連携や繋がりをもつ事で広がりを持つため、活かし方を考えたいです。
33. 福祉を全面に出さずに、自然と関われるコンテンツを作りやすい点
34. 福祉と関わりがない方々への知る機会のきっかけ
35. 自己表現、自発性・主体性がうまれる時間、空間
36. 連携のスキームをどのように組み立てるか
37. 楽しそうなところ
38. 地域や福祉にまだ関心のない住民層を、芸術の力でつなぎさらに福祉活動に導く方法論を確立したい。
39. 芸術要素により、当事者の力が発揮されること。自己表現がひろがること。
40. 地域で実施されている芸術実践に期待しています。
41. 一般的に関心があります。地域住民の生活の一部に芸術活動は含まれていますので、さまざまな形の連携が出来れば、支援の展開も広がるのではないかと考えています
42. 特に高齢者、障害者、子どもなど共通して、一人でも、活動できる分野と考えているからです。当事者の社会参加できる機会の一つとして、可能性などをこの場で情報収集したい
43. アートによる人々の健康と幸福の向上、日本における社会的処方スキームの発展
44. 施設等にて、利用者様と作品制作や芸術鑑賞を行い、多くの感動にふれて、心豊かな日々を送って頂きたい。
45. 人やものへの観察眼と独自の感性
46. 芸術活動には人の心を癒したりする力があると思うので、福祉が対象とする人々と相性がいいのではないかと考えている。ただ何らかの支援を必要としている人と芸術活動ができる人のマッチングが出来にくいので分野横断的に情報共有出来れば良いのにと考えている。
47. 多様な生活のそれぞれの暮らしの中の手の届くところに芸術があるといいな、と思います。
48. どんな効果が生まれるのか
49. 以前、障害を持つメンバーと踊っていたことがあり、私自身の力にもなった経験から、いずれコミュニティダンスが広がればと思っています。
50. 発達障害者の自立と社会参加を促す力があると期待しています。

51. アートセラピーに興味があります。高齢、児童、障害などの分野でもアートは力になるのではと思っています。
52. 介護福祉分野への若年者層の参加意欲の醸成
53. 障がい者のアート活動 生きがい 多くの人の目に触れる
54. 芸術は人を明るくする。
55. 居場所と出番
56. 環境
57. 障害者と社会参加の共通プラットフォームへの期待
58. 障害のある方の作品から、エネルギーを感じることが多々あります。これを社会に繋げていくことで、障害のある方も受け取った方も元気になったり、穏やかな気持ちになれるのではないかと期待しています。作者⇔福祉従事者⇔利益・著作権の全てが円滑に回る仕組み作りに興味があります。
59. 利用者が好きなことを無理なく主体的に関わることができる
60. 「サービスを受ける」だけでなく「暮らしを彩る」という発想により、新たな実践やコミュニティづくりの可能性を感じています。音楽を用いたプログラムを企画中でしたので、ぜひお話をお伺いしたくお申し込みいたしました。
61. 何らかの表現をする機会を持つことが、福祉領域の当事者・支援者などのエンパワメントにつながると感じているから。福祉実践のなかにある価値をアートという別の文脈からも発見していけそうだから。
62. 芸術と福祉が関わることで、仲間ができたり趣味になったりして人生が豊かになると思う。それにより孤立防止や災害時の連携などにも繋げることができると思う。自分自身、大学で学んでいることは福祉領域だが本当は芸術系を学びたかったので、こういうところで繋がってくれると嬉しい。
63. 詳しく分からないので、情報収集、学びをしたい。
64. 芸術の人を動かす力
65. 表現することは全ての人にとって生きるための原動力になると思います。
66. 私自身もガーデニングと福祉の連携をしているのですが、無心で作る中で、同じものが出てこないし、他の人のものを見て素晴らしさを見つけられることが出来る。また、様々な方々と無理なく交流出来るので、色々つなげつながることにも楽しんでいきます。
67. 芸術療法の授業を受講し、芸術と福祉のつながりに関して興味深いと感じたため
68. 芸術を含め、福祉の支援を受けている人いない人、障害のあるなし、子どもおとなにかかわらず平等に表現ができること また福祉に関心のない人ともつながれるツールになること
69. 対話や想像力の幅が拡大する。楽しいコミュニケーションの一つになる。
70. 施設内で障がい者アートを進めていきたいと思っています。
71. 芸術によって、介護・福祉現場に「日常性」を生み出すところ
72. まだ学生の身分のため、正直なところ未知の部分が大きいです。ただ、医療、介護、福祉に芸術の観点加わることは、科学的な根拠や、正確さ、効率性などを求められる分野において、それらに関わる人々の尊厳を守ることに繋がるのでは...と愚考します。
73. 福祉と当事者以外をどう架橋するか考えています。必ずしも福祉を入り口にしない取り組みが、結果として福祉に結び付くこともあると思っており、その1つの切り口として芸術があり得るかもしれないと考えています。
74. 表現
75. 「日常生活の福祉」を芸術の力で「常識の外側」に誘い、福祉の世界を広げていくこと。
76. 年齢や病気などに関係なく生活に楽しみを持てる
77. 地域活動する際や、活動する場所などにアートを取り入れると活動者も参加者も気持ちよく活動できる。もしくは参加者などの芸術の才能を活かせるかもしれない。

78. ただどのように連携していいのかわからない。
79. 施設に入所している人、介護を要する人の生活に「アート」を取り入れ、生活を創造していくことができれば、生活の質の更なる向上に寄与すると思います
80. 介護士として働き始めましたが、学んできたのは美術です。作家でもあります。連携にとっても興味があります。
81. アートがどのように認知症の方に影響を与えるのか
82. 福祉事業所で働いております。ことばで思いを伝えるのが苦手な方の本当の気持ちを引き出すきっかけを作れると良いなと思います。
83. 障害者施設に勤務しているのですが、芸術と福祉の連携は、利用者の皆さんが身内や関係者以外の様々な人や新しい場所との接点を持つ良い機会になるのではと期待を持っています。具体的な実践や事例のお話を伺えたらと思い、申し込みました。よろしくお願い致します。
84. 社会をより豊かに過ごす一つとして、様々な芸術・文化に触れる時間は大切という観点から
85. 不登校の子の中で、芸術が好きな子が多く、支援にあたり、どんな可能性があるか模索中なので事例を知りたいと考えています。
86. ケアの幅が、芸術との組み合わせによって広がることを最近実感しています。

## 【アート】の方々からいただいた回答

1. アーティストの活躍の場が広がる点
2. 各々の専門分野を活かした自由で幅広い連携
3. 未来の社会の可能性を広げる
4. アート活動をする作家などがより活動的に実践を行えるようなきっかけになるのではないかと思います。
5. 美術館活動としての展開
6. 人間の暮らし(日常的な営み)に目線や歩調をあわせて、既存のありふれた型どおりでなく、さまざまな不規則な事情を「素材」に、状況をクリエイションしていく(いける)可能性/余地がある点は、共通するところではないかと思います。
7. 考え中です
8. アートを仕事にしているが、介護中の無趣味の母には活かせるところがなかなかない。しかし、他者にでも良いので、アートの仕事と重なるところがあれば学びたい。
9. どちらも、人間が人間らしく生きるために必要な視点がつまっている分野だと思うため。
10. イベント説明文にある「生活の質の向上」がどのような形で見えてくるのか興味があります。
11. 福祉の場にすでにある工夫や術を、芸術の側からみたときの捉え直しに期待があります。
12. アートセラピーを学びました。今後アートの力で多くの人の心のケアや、より身近に美術館を楽しめるようなこれからの美術館の活用方法に期待したい
13. 自分はコンテンポラリーダンスのクラスやワークショップをしていますが、参加者にクラス外でのメンタルケアが必要と感じることがあると同時に、からだを動かすことと心の良いつながりも感じるため、福祉との連携に関心があります。
14. 社会福祉士の方が芸術自体や芸術の効果について、どのように感じられるのか興味があります。
15. より良く生きるための技術として

16. 初参加なのでまず聞いてみたい
17. 障がい者施設で生まれる創作物やアートが各個人のアイデンティティを呼び覚ませると思っています。当事者や関係者以外にも広く見てもらう機会があれば、ともやもや考えています。
18. 互いに知って補い合うと相乗効果がありそうなところ
19. 美しい・楽しいといった美的な観点のほかにも、人と人の間に、人が作った「作品」(形があるものも、ないものも)が挟まるところに可能性があると思います。人と人が正面から向かい合おうとすると、ときに難しくなったりしんどくなったりするとき、間に「作品」があることがうまく作用することがあります。また、腰を据えて話し合うにはあまりに難しい話題も、「作品」になると付き合ってあげようかなという気になることもあります。「作品」のなかには、それを作った人の創意工夫や考えたことが詰まっています。「作品」を見て、「ここが良いね」「自分はそうは思わないな」と感想をもつことは、自分とは違った考えをもった他者を認めることに似ていると思います。
20. 芸術の力でさまざまな境界線を無理なく飛び越えること
21. 障害当事者の何気ない身近で小さな行為を、周りにいる家族や支援員が一時的に表現と捉え、面白がることで、普段とは異なる関わりが生まれること。障害当事者が表現活動を通して、家族や支援者とは異なる人間関係を結ぶこと
22. 芸術(自分の専門分野はダンスですが)が福祉の領域と連携することで、これまでダンスに縁のなかった人にも体験する機会が広がること、そして、体験した人の中で、数名であっても、その人が生きる上での新たな喜び(個人の楽しみや他者との交流など)につながる方と出会えること
23. 心身の調子が悪い際に芸術に触れることによって辛さから少し逃れられた私自身の経験や、福祉施設で芸術的な療法を経験したことで現在アーティストとして活動されている方の話を聞いた経験があります。これらのことから芸術は人の精神や身体に良い影響を及ぼす可能性があるのではないかと思い、そのようなところに福祉との連携においても可能性があると感じます。
24. 文化芸術が、障害者、高齢者、児童相談所入所児童、ヤングケアラーなどへの健康づくりや生きがいくくりになることを期待します。文化芸術が、障害者と健常者等に対して、お互いを知る機会や関係性を構築する手段となり、知らないことで生まれる差別や偏見解消の一助になることを期待します。
25. 芸術・福祉 双方の人材交流が起こっていくことに期待しています。
26. それぞれの分野に関わる人々が隔たりなく情報共有し、活動すること
27. お互いの可能性を拓くところです。

## 【その他】の方々からいただいた回答

1. インクルージョン
2. 参加につながるどころ
3. 問いや存在のもつちから
4. 福祉的支援を必要としている方々が持つ能力に芸術の領域でこそ引き出せるものがあると期待しています
5. 福祉的介入による地域づくりと芸術の役割の可能性について。
6. 非営利活動におけるアートの力や役割
7. 言語以外の表現によって福祉へのリーチが広がることを期待しています。
8. 芸術と福祉の共通項は、人に寄り添い、人の心を動かすこと。医療・介護を専門職だけで行うのではなく、誰もがケアギバーとして社会との接点を持って関われる、そしてそれがダイバーシティ&インクルージョンの社会にもつながっていく、そんな可能性に期待をしています。

9. 芸術を切り口にすることで、潜在クライアントの表出ハードルが下がりやすい
10. 高齢や障害によって生活の豊かさを感じにくくなっている人が、芸術に触れることで豊かさを感じられたらいいな、という視点で興味があります。
11. 文化と常識(自分が人にされたら嫌なことはしない)が差別のない多様性を認める社会を作っていくために大事だと考えます。文化芸術福祉の連携が争いの起こらない社会を作る元になると思います。
12. 介護福祉分野は機能性が求められる中にデザイン性を採り入れるのがむずかしいところ
13. よくわからないのでセミナーを聞こうと思いました。恥ずかしながら芸術、福祉連携という言葉聞いたことがないです。
14. 各分野にいただけでは気付かない思考法、視点、課題解決法のヒントの相互作用
15. 連携すること自体ではなく、本来垣根なくできるものであり、誰もが自由にできるアートに気軽に取り組むヒトが増えればいいと思う。
16. 施設の高齢者が美術館などを訪れることができる、毎月専用の日がありますか。
17. 芸術作品は、適切なサポートさえあれば、誰もがその価値を共有し、楽しめるという強みがあると考えています。
18. 興味あります
19. 波及効果
20. 工房舎、ヘラルボニーなどアートと福祉の活動がだいが世の中に出てきていると思っています。今後の発展など考えたいです。
21. 社会認識の変容が、福祉の理解には大事と思う 芸術がその助けのひとつになると思っている
22. 医療福祉活動が行われている環境の中に芸術・文化の要素をもっとカラフルに取り入れる。医療福祉を受ける側の人々自身が音楽・ダンス・絵画・演劇などの表現者になる。
23. アートを介して人と人がつながること
24. 自己表現、商品開発、社会とのつながり、楽しみ、居場所づくり
25. 障害を持った人がモノづくりを通して社会とつながること

## 芸術・福祉連携の促進に向けて

「現在取り組んでいる、もしくは今後チャレンジしてみたい【芸術・福祉連携の取り組み】はありますか。企画・実施上の悩みなどがありましたらあわせてご記入ください。」への回答（アンケート）

### [介護・福祉] の方々からいただいた回答

1. アートセラピーの方とご一緒に出会いの場や人と人をつなげる活動を始めたいと思っています。
2. 地域に住む外国人・外国人高齢者と日本人・コミュニティを音楽で繋げたい
3. シルバーのダンスプロジェクトに参加しています。
4. 私は、介護付き有料老人ホームの管理者をしております。毎年さいたま市では、シルバー作品展が開催され、当施設の入居者様からも、多くの作品が出展されています。アートへの関心が高い施設なので、この度の勉強会は、とても参考になりました。ありがとうございました。
5. 高齢者・障害者の制作物、デザインを使った製品の販売を行っている。
6. 参加者や自分自身が自尊感情を高めることのできる芸術・福祉連携企画を考えたいです。
7. 一部の職員とアニメに声を吹込む「声優体験」をしてみたいと話しています。 ※今回、アニメ・漫画もアートと捉えて良いのではないかと実感いたしました
8. 陶芸と福祉を繋げる活動を行っています。陶芸工房を運営している。
9. 現在…映画会(主に高齢者の集いの場)、こどもプログラム(舞台芸術の鑑賞会)など。次年度…新たに音楽会を予定しております。コロナ禍以降、参加者の減少が課題になっています。これまでは口コミで広がっていきましたが、新たな仕掛けが必要だと感じております。
10. 福祉職員です。まずは法人内でアートの取り組みを広げ、地域へ向けてのワークショップなどを開催していきたいです。アートの取り組みを通じて、施設や障がいのある方について少しでも理解していただけるようになればと思います。今回の勉強会で、みなさんの取り組み方や内容を知り、大変参考になりました。愛媛県在住のため、現地での参加はできませんが、オンラインの研修には積極的に参加し吸収したいと思います。
11. 認知症の人とアート学生による作品の共同制作(例えば認知症をイメージしたオブジェ、思い出に基づいたアニメ)
12. ダンスと福祉を形にすること。
13. 福祉現場の施設や事業所ではレクレーションが多く行われている。学生が実習に行ってもレクレーションを頼まれたりすることが多い。また認知症の介護などに音楽療法があるように、実際に行われているのですから「美術療法・アート療法」があっても良いと思います。
14. 芸術とアートという言葉のニュアンスではアートの方が入っていきやすいような感じがします。柘埜先生が話されたように、介護福祉士養成課程のカリキュラムは新カリでは遊び心のようなところが削られています。一方で自由度もありますので私たちのところでは過去のものを残してはあります。別途に世代間交流論・演習の授業を作って地域交流をしています。
15. セッションワークや教室をできたらいいです
16. 今はしょうがい等の有無を問わずに誰でもができるミニチュアガーデンづくり等のガーデニングワークショップを福祉団体や地域活性化団体等との連携しながら、行っています。

17. 福祉系の仕事をしているため高齢者と接する時間は多いですが町会や青年部や学校など多年齢の方と接する時間も多く、みんな一緒に集めてしまえと昨年に第一回多世代交流祭りをやった時に藝大生の方に演奏してもらい、皆さんが酔いしれるひと時があり大変好評でした。今年は都市農業公園をお借りしてのイベントと、近隣の団地URの活性化を自治会長と相談して進めています。人が集まるところにアートは必要と感じています。
18. こども、障害者、高齢者などの対象を限定しない、アートを介したつながりづくり
19. 地域での多世代交流の場で活用できることに期待したい。
20. 公共施設で、住民や子供向けイベントを考える部署で働いています。自己表現して、同時に他者を称賛し、良い刺激を受けられるアート系活動は、多世代交流にふさわしいと思います。そして何より、みんなの笑い声や驚きの声が響く場所を生み出せることが魅力的です。何か福祉とアートをつなげるイベントがしたいと思っていますが、具体的に何をどうするのかまだ悩んでいます。自分自身、芸術は見る専門で、作るのはさっぱり…。地域の社会資源の中に、講師を務められそうな人を探したり、美術館や劇場等との繋がりを作ることから一歩ずつ始めたいです。
21. 引きこもりの若者の社会参加や自立を促す企画に地域でチャレンジしたいと思います。
22. とても大切な視点を学んだので、この辺りも整理して後で送付したいと思います
23. 人材育成の取組みの交流など
24. 芸術にスポットをあてて、高齢者、障害者、児童などが交流し、自分の力を見出す機会づくりを改めて、進めていける可能性を感じました。
25. 芸術とターミナルケアについて
26. 学校と地域の介護予防事業とコーディネートを考えたい(介護予防と福祉教育アート)
27. 障がい福祉現場で活動しておりますが、感情の表出的な取り組みやコミュニケーションのツールとして実践しているのが主であり、人や地域との関りなどに広げる事に課題を感じておりましたので、今回の話をきっかけに取り組みでいきたいと改めて感じております。
28. 障害者等、社会との接点が薄い方へのアートのワークショップと作品の商品化。企画運営上の悩みでは当事者との契約、ロイヤリティー等のコンプライアンスの整備
29. 公園を舞台に見立てた多世代参加型アートと食のコラボイベント

## [アート]の方々からいただいた回答

1. 《目に見えにくい難病》の当事者の声や体験記をもとにした演劇の上演
2. アートセラピーの技法を利用して地域への貢献を目指しています。
3. 現在、社会に馴染めない若者とアートを介して交流する試みをしています。今後、活動拠点を増やしていきたいと思っておりますがどこも繋がれば良いのか悩みます。
4. 地元で福祉施設で生まれたアートの展示イベントをやりたいと考えています。自治体関連で開催される「障がい者アート展」に訪れる人は関係者ばかりというケースがほとんどなので、福祉などに興味のない層にも楽しんでもらえるような展覧会にできないものかと画策しています。

5. 昨年9月に子どもが生まれ、少し状況が変わっていますが、コンテンポラリーダンスのダンサー・講師として活動しています。また、NPO法人ARDAのアーティストのワークショップのコーディネーターや、障がいのある方を含むダンスカンパニー響の制作補佐としても関わっています。今回一緒に参加していたAAPAの上本竜平とともに、現在「からだの対話の場をひらく」というプロジェクトをアーツカウンシル東京の芸術文化による社会支援助成をうけて、おこなっています。私達が行っているダンスは今回の話題にもあったように「振付や形が決まっていないダンス」で、アートやダンスというとちょっとハードルが高いとか、できない、と思ってしまう人達にも、まずはやってみる機会をつくっていきたくて考えてきました。(全員でないとしても、やってみたら意外と楽しめた、好きだった、興味を持ったという人がいるのではないかと考えているので) 自分のからだができることを再発見したり、人と一緒にからだを動かしながら多様な人と出会うことは、誰においても生きていくうえでの支えや喜びにつながりうるという思いがあり、「福祉」という領域に関心が向かうようになりました。ただ、「福祉」といっても幅がひろく、現場とのつながりがないなかで、自分たちの想いや関心、提供できる内容にあうのはどの領域なのだろうか、実際に興味をもってくれる人達はいるのだろうか、といった悩みがあり、今回福祉に携わる方々の話がきけてとても良い機会になりました。また、アートワークショップのコーディネーターとして活動している中で、単発・数回のワークショップを届けるという形ではなく、もっと継続的にその場所や人と一緒にすごしたり、プログラムをあみだしていったりできるような形をつくれないうるか、そういったことに興味のある福祉関係の方々とお出せないだろうか、すぐに実現しないとしても、そこにある課題や方法を一緒に探していけないだろうか、というような思いがあります。
6. 自身が主宰するダンス作品の創作活動を行うAAPA(アアパ)で『からだの対話の場をひらく』というプロジェクト(<https://aapa.jp/pj2023-24>)を、昨年10月から墨田区及び足立区の芸術文化施設を会場として行っています。月1回のワークショップとトークの場を定期的で開催し、コロナ禍に注目を集めたことをひとつのきっかけとして、他者に『触れる／触れられる』ことに伴う緊張や安心に関する対話を深めていく機会を、ダンスへの関心を問わず一般にひらいていくことを目的としています。このようなプロジェクトを始めようと考えたきっかけとしては、AAPAで運営する北千住の「日の出町団地スタジオ」で、からだの動きを整えることを目的にした「ボディワーク」や、「コンタクト・インプロビゼーション(CI)」というペアで身体接触を伴いながら動いていくダンステクニックをベースにしたクラスを定期開催してきたなかで、若者から定年後の方まで参加者に年齢層の幅があり海外国籍の方も時おり混じるなかで、メンタル面の不調や精神的な疾患を伴う方との出会いが増えてきていることが、理由の一つとしてあります。「病名」や「障がい」を伴う方もいると同時に、そのような明確なものもなくとも、社会的な他者からの視線や規範、時世などに配慮して、自身の感情や思っていることを話づらいと感じてたり、緊張が通常になっている方も多く見られるので、ひろく一般の方が参加可能な形で、からだを動かしたり、からだの感覚・感情について対話ができる場をひらいていくことを、現状は目指しています。ただ福祉や医療の専門性があるわけではないので、既に福祉・医療分野で行われている取り組みや、目指そうとされていること(地域社会での包括的な福祉医療など)と自身のプロジェクトをつなげていくことが、今後は必要だろうと考えていて(自宅が千葉県の大網白里市なのですが、近隣のいすみ市で行われている、北海道のべてるの家の職員だった方が主宰する「当事者研究をやってみようの会」に参加したことも、この実感を裏付けています)今回のオンラインイベントにも参加させていただきました。また、個人的な経験談になってしまいましたが、北千住の街中で10代の子どもたちが「障がい者」に関する偏見を悪気なく話しているのを今朝目にして、差別の意識が社会にあることは避けられないことだなとあらためて感じながら、その上でどうしていくか、という話なのだろうと考えています。自分も福祉・医療に縁が薄い人生を過ごしてきたので、これから学んでいきたいと思います。

## [その他] の方々からいただいた回答

1. ドラムサークル、演劇的手法を用いた健康教育
2. 現在文京社会福祉士で地域の居場所作りに関わっていますがアートの視点も取り入れてみたい
3. 訪問リハでアートとのつながりを日々行えるようにと考えています。「社会的処方」だけでなく生きる事がアート(芸術ではなく)とつながっていると、生きやすくなると実感しています。
4. 集いの場に「アート」を通じた取り組みを、持ち込んでみたいです。
5. モノづくりを通して障害者と社会を結びつけるコトができないか模索中。

6. シニア世代はデジタル機器にもっと強くなるべき。そうでないと、長生きするほどデジタル社会で生きづらくなる。この観点から自治体・地域団体の役割は大きい。文化・福祉連携にも欠かせない視点であると思う。
7. 地域福祉(包括支援センター、社協、障害福祉事業所、高齢者福祉事業所、自治会等)の関係者とアートイベントの開催。子どもや貧困支援団体の中で定期的なアートイベントや子ども食堂とのコラボ

---

## 感想

「今回の勉強会でもっと知りたいと思ったこと、スピーカーへのメッセージやご感想などがありましたらご自由にご記入ください。」への回答（アンケート）

---

### [介護・福祉] の方々からいただいた回答

1. 企画と登壇の皆様ありがとうございました。芸術分野の才能がないのでアートは敷居が高いと思っていました。できることはある。広がることがあるとわくわくしました。
2. アートを用いて地域を巻き込んだ事例を知ることが出来て良かったです。私も地域包括支援センターで働く1人として、自分の地域で何がしていけるのか日々考え、行動していきたいと思います。参加させて頂きありがとうございました！
3. アートを通して、関わっている人にも傍観者である人にもある種の共感が生まれるということ、本日、参加して実感しました。
4. 前から検討していて、今回はすごく参考となりました。
5. 施設の入居者様、職員の皆さんに、この度の勉強会のような取り組みについて、知らせたいと思います。私も芸術が大好きで、アートが人に感動を与え、心を癒すものであるかを世に伝えていきたいです。皆様のご尽力に、深く感謝申し上げます。
6. 「アートとは何か」を始めて考える機会となりました。これまで、アートとは絵画や音楽などの高尚なもので、自分は踏み込めないステージという印象を持っていました。しかし、個々の創造性と感性が合わされば、それはもうアートと呼んで良いのではないかと感じました。建築やダンス、写真なども。そうすると、漫画やアニメも作者の創造性と感性が反映されており、アートと呼べると思い、私たちの日常生活の中にアートは溢れかえっている事、実感しました。正解不正解のない安心できる居場所。地域福祉で作り上げる居場所も同じく、こういった居場所が必要であり、その在り方は対面やオンライン等様々な形が必要である事を再認識しました。顔が見えるからこそそのような方なのか、認められ賞賛をいただけていることが分かる安心感。顔が見えないからこそ自分のイメージを発信できる安心感。
7. 様々な方々と関係性を構築する1つの手段として、今後、アート×福祉の連携を図っていただけると感じました。本日はありがとうございました。
8. 福祉分野にいとアート業界のことを知らず、専門の若い方の話が聞けてよかったです。自分が理解できない相手の表現ををわかろうと楽しむ心の持ち方がとても素敵だと思いました。
9. この度は貴重な機会をありがとうございました。スピーカーのお話にもあったように、芸術には「人と人との関係を再構築できる良さ」があると思っております。“同じ感動体験を得られる”ということがポイントではないかと勝手ながら考えています。これまであまり重視されなかったテーマですので、様々な立場の方のお話を聞ける大変貴重な機会をいただきました。今回の学びを今後の実践に活かしたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
10. こういった機会が増えると良いですね。
11. 介護とはなにかを伝える立場から「介護はアートである」と考えていた人はもう何十年もまえからいました。しかし今回、岡田恵未子さんのアーティスト側としても「人間が人間として出会うきっかけ」という発言から、時代が進んだと感じました。
12. 農や食とのコラボなどの事例がありましたら知りたいです。足立区周辺は全く知らない地域ではありませんので、千住(千寿)地域の再開発の一方での古民家のような居場所のコラボでのウェルビーイングの創発に期待します。
13. すいません今回研修参加できませんでした。資料データいただければ幸いです。

14. もっと広がるように支えていきます。
15. 社会の課題を語るときに、こういう視点で、こういう結論を出すのが行儀良いし、正解だみたいな空気があります。今回のお話を受け、ART(どこまでをとらえるのかも人それぞれですが)は、混んとした社会課題に向き合う際のきっかけづくりとしては間口が広く、受け入れやすい気がしました。
16. 皆さん目的としていることは同じだなあと感じ、いろいろ実現したいと感じました。オフ会ですがその時間にちょうど予定が重なっており、二次会があるようでしたら是非参加したいです。
17. 勉強会で、正解や不正解がないアートは、誰もが安心できる場所になり得ると伺いました。私自身、美術館や劇場に遊びに行くのが趣味です。自分が楽しんでいるアート系イベントが、多くの人にとっての居場所になっているか？という新しい視点で捉え直すのも面白そうだと感じます。
18. 実践について分かりやすくご紹介をいただき、有難うございました。地元(さいたま市)には県立、市立の美術館がありますので、福祉とアートの連携について考えていきたいと思えます。
19. 一言での表現が難しいので、あとで整理して送りたいと思えます
20. 2人目の方のお話がきちんと聞けなかったのは残念でした。が、言わんとすることは感じることができました。芸術をとおして、分野をまたがっていきやすく、芸術には、間違いはないという面で誰もがとつきやすいのだと言うことだと確信しました。福祉と芸術を切り口にする視点が大変、大きな気づきとなりました。
21. 66才です。高齢者の介護「予防」という言葉に違和感をもっています。なんでかな～とっていたことが、今回の勉強会で、そういうことか！、と、思いました。死ぬまで予防ではなく…自然の摂理によって弱り、消えていくのはあたりまえなので、それでもアートがそばにある方がいいな、と思いました。ありがとうございました。参加できて良かったです。
22. 吉田様、青木様の貴重なお話を聞けることができ大変感謝しております。また私自身大変刺激となりました。障がいの分野においては、施設の種別の中の制限はあります。しかし人と人とのつながりや、作り上げていくことでの分野ごとの共同により、新たな価値観が生まれ、広がりを持つことができる事が今の世の中では大切なことと感じております。それを実現するためには、今回のこのような事例等を見て、聞き、私たちの取組の中で何ができるか考える、行動に移しながら発見し広げていきたいと感じました。またディスカッションにおいても各分野の方々の取組や考え等聞けることができ、様々な視点から考えるきっかけとなりました。こちらも貴重なお話をありがとうございました。
23. アートは本当に幅が広い概念なので、もっとこのような取組みが進めば福祉も変わると思えます。これから福祉の人材など含め、今までの関係性だけでは福祉は担いきれないと感じています。そのためには多様な、本当に今まで関係がないと思われていた方とどう連携するか、さらにお互いにメリットがあるよう仕組みやコーディネートを行うことが必要と感じています。
24. 対話型鑑賞の可能性をもっと知りたいと思いました。
25. 福祉現場において表現を見出していこうとするとき、職員側の意識の変化も必要なのではないかと感じる節もあり、アーティストの方などに職員向けワークなどもやっていただけたらいいのかなと思いました。参考にそういった事例があれば知りたいです。
26. 「アートは関係性を変える、つなぎ直す」という発言から、支援する人、支援される人という関係ではなく、アートを楽しむ人同士、平等で対等な関係性につなぎ直すこと、場についてもっと知りたいと思いました。さらに、「アートを通じた社会との関わりは幸せなこと」では、相互に尊重する関係性(自分の存在、自己選択を尊重)を支援する「自立支援」とそのような場、社会に参加する機会「社会参加」で成り立つと思えますが、皆さんの具体的な体験やご意見を伺いたいです。野口泰司さんにイギリスでのアートとセラピーの目的等のお話を伺いたかったです。
27. 現在進行形の具体的事例をお伺いでき、とても勉強になりました。ありがとうございます。
28. アートは高尚なものではなく、生活の中にあるもの、という言葉に共感しました。
29. アートが秘めている未知の力は多種多様であると思えます。すでにこれらの活動に取り組んでいる実践が国内でも見え隠れているケースが多いのではと思われれますので、何らかの形で発掘の取り組みがあれば良いなと思えます。

30. 今回の勉強会への参加申し込みをしていたのですが、急遽仕事になり参加できませんでした。もし可能であればどうかアーカイブ配信のご検討をお願いいたします。難しいようでも、また引き続きこのような機会をいただけますようご案内を頂戴できればと思います。
31. ワークショップは、少し技術があれば誰にもできます。アーティストでなければ出来ないコラボレーションを期待します
32. スピーカーの接続状況の改善。声もけとりにくかった。動画と一緒に話すのもききとりにけったです

## [アート]の方々からいただいた回答

1. アートに軸を置く身として、他領域の方々がアートに対してどのような期待をされているのか、を感じることができて大変刺激になりました。ありがとうございました。(オフ会も大変参加したかったのですが難しそうです…)
2. 青木さんが紹介されていた「自分だけの美術館をつくるワーク」とても楽しそうで、いいなあと思いました。もっと他の実施事例もききたかったです！また、介護福祉士の養成課程において、「レクリエーション」の科目が新カリキュラムでは必須でなくなったこと、音楽や演劇などの上演分野はなかなか「アート」として認知されにくいこと(だから「アート」というキーワードをむりに推すより、ほかの入り口から入った方が本当にやりたいことに近づける)…など、お話の中から新たに知ったり、改めて考えることができました。
3. 色々な情報の交換を定期的にしていただけたらと思いました。
4. 青木さんのお話、途中で終わって残念でした。続きを拝聴したいです。
5. "アート領域からの参加者として、介護・福祉の領域が網羅する範囲はとて広く、とても身近なはずなのにあまり知らない！と感じたため、4名の皆さんのディスカッションのパートを特に興味深く拝聴していました。「アートと介護・福祉」にはすごく可能性があると思いました、どちらの領域も広がったりこれという正解がなかったりするの、ほんとうに様々な角度から語れるなとも思いました。アート作品は、とても個人的な考えや体験が出発点になっているものも多いです。だからこそそれを観た人の個人的な部分に、話を聞くのとは異なったりかたちで響く力を持っていると思います。今回は、吉田さんと青木さんという、街の中をフィールドとした仕掛け人のお二人からその実践についてお話を伺いましたが、作家などまた別の形で実践をしている人からも話を聞けたら良いなと思いました。
6. なかなか自分だけでは、福祉の方々とつながる機会や、お話を聞ける機会がつかれませんでしたので、このような機会をいただき、ありがとうございました。福祉というのがニーズが拡張しているという話がありましたが、福祉の領域でアートへの関心が高まっているのはなぜなのか、どんな期待がふくまれているのか、など福祉のほうでどんな話がされているのかも知りたいなと思いました。
7. 資料のスライドの10ページにある「多様化するニーズへの対応」という内容は、自身のプロジェクトの取り組みも「福祉」の領域に関わることではないだろうかと、あらためて感じる事ができたので、より詳しく知ることができればと思う。また、野口泰司さんが話されていた、「エビデンス」と「実際にロンドンで行われている様々なアート・セラピーが定着している社会」というもののつながりについても、自身のワークショップの参加者にもロンドンでダンスセラピーを学ぶ学生がいるので、より詳しく知りたいと思った。青木彬さんが話されていた「キュレーター視点で美術館の展示をミニチュアでつくってみよう」というデリバリー型のワークショップ(ちょっと音声聞き取りづらかったので理解が十分にできてない気もしますが)も面白そうで、自身のダンスや舞台系のワークショップでも(からだを動かすことだけではないアプローチとして)そのような発想を取り入れることができないか考えてみたいと思った。
8. アートプロジェクトが始まったきっかけ、誰が費用負担しているか
9. TURNフェスティバルや、DOORなど、福祉とアートの取り組みの事例はいくつか知っていますが、福祉とアートの可能性の実感体感はまだないので、実践を重ねて実感を持ちたいなと思いました。介護福祉領域を専門とされている方のお話もお伺いしたいです。

14. 全国から各分野に渡る多くの方が参加しておられ、潜在力の大きさを感じました。堀さんによるはじめの説明の部分で、アートと介護・福祉について少し頭を整理することができました。期せずして前日に見学させてもらった別の現場(※)も本テーマに関するものだったため、連日でこの分野への入門編のような時間になり、感謝です。青木さんのプレゼンテーションが十分聞けなかったのが悔やまれますが、3人のディスカッションというトークをもっとゆるくラジオ的に聞いていたかった気がしました。(3/10は先約あり残念ながら欠席いたします) ※Art for Well-beingの一環で、奈良のたんぼぼの家が実施しているプログラム<https://art-well-being.site/report/979/> 会場には、スライドで紹介されていた厚労省による障害者芸術文化活動普及支援事業の連携事務局を(アートNPOリンクとして)務めているスタッフの方もいらしており(その中でたんぼぼの家が近畿ブロックの運営を担当しているとのことで)色々動きを感じ、勉強になりました。

## 【その他】の方々からいただいた回答

1. 今日はありがとうございました。皆さまの取り組みに感動し、可能性を感じました。自分の取り組みにも力をいただくことができました。
2. 都内のみならず日本各地でこのテーマでこんなに多くの方々が活動されていることを知っただけでも収穫でした。個別の活動事例を今後の参考にしていきたいと思っています。安心感のある場について、正解、不正解が問われないという説明が印象的でした。
3. 私は作業療法士でアートセラピー、アート活動と作業療法の違いを一人研究しており、青木さんの行ったアート活動？を知りたかったです。オフ会に参加したかったのですが、所用あり参加できません。ぜひ、オフ会も継続していただけると嬉しいです。
4. 今回の勉強会の主催を、社協の職員がされていたことに、すごくびっくりしました。同じ社協の職員という立場なので、いかに自身の学びが足りないか、視野が狭かったか、取り組みが限定されてしまっていたかを痛感し、また、気付かせていただき、大変ありがたかったです。
5. 青木さんの介護実習での取り組みが面白そうだったので、またの機会に続きが知りたいです。
6. これまでZOOM体験は少なくともはなかったが、今回の勉強会に入室するには、戸惑った。もっとシンプルな手続きで参加できるようにお願いします。内容については、私には新しいことが多く、学べました。
7. 事例紹介的な内容も良かったが、今後継続するならもう少しテーマをしぼり、学びを深められると良いと思う。福祉畑の参加者が多いならいっそアート系に振り切ってテーマ設定。事前参考資料など案内しつつチャットで補足解説などすると、かなり実りあるものになりそう。コメンテーター？ゲストスピーカー的な方のフィードバックに学びが大きかった。オフ会は参加してみたいですが、ひとり親で子どもが小さいので断念します。ごめんなさい。
8. 福祉×アートにオンライン参加できるプログラムがあれば知りたいです(特に介護×アート) 現場はもちろん、介護士養成課程にも、福祉×アートを取り込んだら…のお話、共感しました

## 開催にあたって

社会福祉法人足立区社会福祉協議会 堀 崇樹

いらっしやいませ！  
始まる前にお読みください。

アートと介護・福祉の勉強会  
(2024.2.16)

- **【ビデオは オフ】** にしてご参加ください。
- **【名前は、申込フォームに記載した氏名】** にしてください。
- スクリーンショット・録音はお控えください。
- 勉強会は、記録資料として録画いたします。
- 申込フォームの回答、終了後アンケート、本日の記録は、氏名、所属名を除き、今後の研究および活動に活用させていただきます。予めご了承くださいますようお願い申し上げます。

1

地域福祉におけるソーシャルネットワーク(SNCD) 第21回研究会

# アートと介護・福祉の勉強会 (2024.2.16)

後援 埼玉県社会福祉士会・東京社会福祉士会・日本地域福祉学会関東甲信越静部会  
協力 日本介護福祉学会・日本ソーシャル・イノベーション学会・東京都社会福祉協議会

## 主催 地域福祉におけるソーシャルネットワーク



**social network**

for community development

地域福祉における「つながり(ソーシャルネットワーク)」に関する理論  
とその活用について議論する研究会

過去の研究会

(読書会) 立ち上げ期の地域福祉活動:資源動員論から考える

(座談会) 重層的支援体制整備事業の現状と社協の取り組み

<https://socialnetcd.jimdofree.com/>

## 文化芸術と介護・福祉の接近

## 文化芸術と介護・福祉の接近（1） 障害者芸術文化活動普及支援事業

障害のある人が芸術文化にふれ、楽しみ、深めることができる社会づくりを推進する中間支援事業

- 47都道府県に障害者芸術文化活動支援センターを設置(目標)
- 相談支援、機会創出、人材育成、情報発信に取り組む

<https://arts.mhlw.go.jp/>

## 文化芸術と介護・福祉の接近（2） 東京都美術館

「Creative Ageing ずっとび」

2023, 公益財団法人 東京都歴史文化財団 東京都美術館

- アクティブシニア対象 異世代交流プログラム みる旅
- 認知症の人、家族を対象 とびラーと楽しむ美術館めぐり など

<https://www.zuttobi.com/>

## 文化芸術と介護・福祉の接近（3） 世界保健機関（WHO）

「健康と福祉の向上における芸術の役割に関する証拠は何か？  
スコーピングレビュー」2019, WHO

- フレイル(虚弱性)、介護者支援、認知症、終末期ケアなどについて、  
900以上の研究成果を用いてエビデンスを整理

<https://www.who.int/europe/publications/i/item/9789289054553>

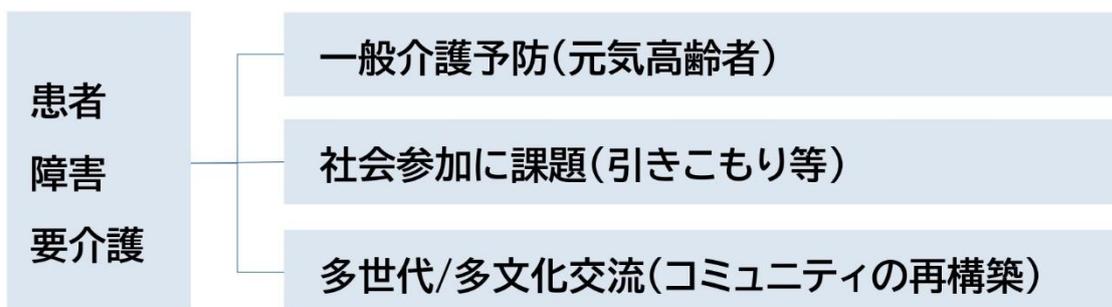
## アートと介護・福祉連携の可能性

## アートと介護・福祉連携の可能性 論点1 機会の創造

- 福祉における文化芸術要素の縮小 ex) レクリエーション/医療的ケア
  - 社会的処方(social prescribing)とは、患者の課題を解決するために、地域の活動やサービスなどの社会参加の機会を“処方”すること。(日経BP※) ex) 博物館浴、天文台浴
- 制度の内外においてどのように機会を創出しうるか？

※ 日経BP <https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/keyword/19/00133/>

## アートと介護・福祉連携の可能性 論点2 多様化するニーズへの対応



→ 各ニーズ領域で、芸術と介護・福祉はどのように協力できるか？

## アートと介護・福祉連携の可能性 論点3 芸術の価値の矮小化リスク

- 公的サービス(介護・福祉)には効果期待圧力がある
  - 行政課題(需要)への接続は、文化芸術を手段化/道具化する  
(cf. 藤田直哉『地域アート』堀之内出版、2016年)
- 文化芸術の価値を矮小化しない連携は、いかにして可能か？

## アートプロジェクトの紹介



## 吉田 武司 氏

特定非営利活動法人音まち計画  
東京藝術大学

京都造形芸術大学芸術表現・アートプロデュース学科卒業。埼玉県〈北本ビタミン〉(2010～2012)や東京都〈三宅島大学〉(2013)などのアートプロジェクトの企画運営に携わる。東京藝術大学特任助教。「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」ディレクター。



## 青木 彬 氏

インディペンデント・キュレーター

一般社団法人藝と ディレクター。東京都立大学インダストリアルアートコース卒業。アートを「よりよく生きるための術」と捉え、様々なアートプロジェクトを企画している。現在は福祉とアートの接点を模索するためセツルメント運動の調査に取り組むほか、社会福祉士の資格取得を目指して勉強中。

# ディスカッション

地域福祉

渡辺大輔氏 台東区社会福祉協議会

介護福祉

柊崎京子氏 帝京科学大学/日本介護福祉学会

公衆衛生

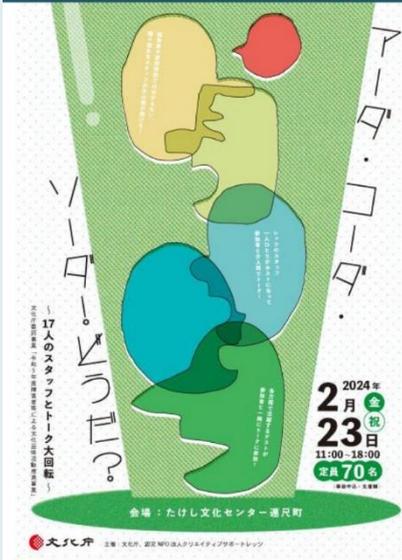
野口泰司氏 University College London

芸術文化

岡野恵未子氏 アーツカウンシル東京

## 情報提供

## 情報提供 ①



### アーダ・コーダ・ソーダ! どうだ? ~17人のスタッフとトーク大回転~

[日時] 2024年2月23日(金・祝)

11:00~18:00

[場所] たけし文化センター連尺町

(静岡県浜松市中央区連尺町314-30)

[定員] 70人・事前申し込み

[参加費] 無料

[申込] 詳細・申し込みは右QRコードから



## 情報提供 ②

ファンタジア! ファンタジア! 生き方がかたちになったまちー

ディスカッション形式でアイデアを生み出すワークショップ

まちへ出たアートが今度はお宅訪問!?

### 地域で暮らす高齢者へ向けた アートプログラムを考えよう!

日程 | 2024年3月17日(日)  
時間 | 13:30~16:00 (13:15 受付開始)  
会場 | 興望館 本館1階  
参加費 | 500円  
定員 | 20名・先着順  
申込 | 事前予約制 (3月15日締切)

### 地域で暮らす高齢者へ向けた アートプログラムを考えよう!

[日時] 2024年3月17日(日)

13:30~16:00 (開場13:15)

[場所] 興望館 本館1階

(東京都墨田区京島1-11-6)

[定員] 20人・事前申し込み

[参加費] 500円

[申込] 詳細・申し込みは右QRコードから



## 情報提供 ③



### 演劇で「居場所」を学ぶ

[日時] 2024年2月23日(金・祝)  
14:00～15:30 (開場13:30)

[場所] 梅田地域学習センター 4階ホール  
(東京都足立区梅田7-33-1)

[定員] 220人

[会費] 無料

[申込] 不要 (定員に達した場合、入場できません。)

※ 事前にご連絡いただいた方には関係者席をご用意いたします。

2024.2.16 地域福祉におけるソーシャルネットワーク(SNCD) 第21回研究会

19

## 情報提供 ④



### オフ会

[日時] 2024年3月10日(日)  
17:30～19:30 (開場17:15)

[場所] 仲町の家 (東京都足立区千住仲町29-1)

[定員] 20人

[会費] 1,000円

[申込] <https://forms.gle/1MLsYz2EWTEwykka7>

※ 事前申込制です。

※ 軽い飲み物、スナック菓子などをご用意します。



2024.2.16 地域福祉におけるソーシャルネットワーク(SNCD) 第21回研究会

## アートによる縁結び

### すみだ川アートラウンドを事例として

NPO法人音まち計画／東京藝術大学 吉田 武司氏

アートと介護・福祉の勉強会

## アートによる縁結び すみだ川アートラウンドを事例として

吉田武司

NPO法人音まち計画／東京藝術大学

## 自己紹介



アートアクセスあだち 音まち千住の縁 ディレクター  
東京藝術大学 特任助教

### 吉田武司

埼玉県北本市で実施された〈北本ビタミン〉（2010年～2012年）や東京都三宅島の〈三宅島大学〉（2013年）などアートプロジェクトの事務局として企画運営に携わる。その後、2014年にはアーツカウンシル東京のアートポイント計画のプログラムオフィサーに従事。現在、足立区千住を中心に「音」をテーマにまちなかで展開しているアートプロジェクト「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」のディレクターを務める。



wah document 「家を持ち上げる」 (2010年)



五十嵐靖晃「そらあみ 三宅島〈帰島式〉」 (2013年)

# アートアクセスあだち 音まち千住の縁

通称：音まち

- ▶ アートを通じて人と人との縁を紡ぐ足立区千住を中心とした市民参加型「まちなかアートプロジェクト」
- ▶ 2011年度に発足（今年で14年目のプロジェクト）
- ▶ 東京藝術大学・足立区（シティプロモーション課）・NPO法人音まち計画の3者共催（2021年度までは東京都・アーツカウンシル東京も共催）



# アートアクセスあだち 音まち千住の縁

通称：音まち

- ▶ アートを通じて人と人との縁を紡ぐ足立区千住を中心とした市民参加型「まちなかアートプロジェクト」
- ▶ 2011年度に発足
- ▶ 東京藝術大学・足立区（シティプロモーション課）・NPO法人音まち計画の3者共催

大巻伸嗣「Memorial Rebirth千住」



千住の文化サロン「仲町の家」



「1DAYパフォーマンス表現街」



野村誠「千住だじゃれ音楽祭」



イミグレーション・ミュージアム・東京

## 音楽とだじゃれを掛け合わせた音楽実践 野村誠「千住だじゃれ音楽祭」

### 逸脱することを良しとする「だじゃれ音楽」

作曲家 野村誠を中心に2011年から展開している「千住だじゃれ音楽祭」は、地域の人たちが、気軽にだじゃれを言い合い、そこから音楽を生み出し、市民と共に作り上げる音楽プロジェクト。

「だじゃれ」は、別々の言葉をつなげることで生まれるパワーを楽しむものであり、「だじゃれ音楽」は、その力を活かした新しい作曲方法の開発に向けた取り組みで、楽器経験、だじゃれ経験は一切不問。年齢、居住地、障害の有無や国籍などの制限もなく、自分が好きなこと、得意なことなら何でも、新たなだじゃれ音楽の創造に活かすことができる活動である。

野村誠



## 音楽とだじゃれを掛け合わせた音楽実践 野村誠「千住だじゃれ音楽祭」

### だじゃれ音楽研究会（通称：だじゃ研）

「千住だじゃれ音楽祭」の中核を担う市民音楽団体。メンバーは小学生から87歳まで幅広く、楽器経験のない方や留学生、障害のある方も参加。月に一度の活動日を中心にイベントやコンサートにむけての練習や打ち合わせ、その場での即興セッションを楽しんでいる。



## 音楽とだじゃれを掛け合わせた音楽実践 野村誠「千住だじゃれ音楽祭」

だじゃ研メンバー：坂口千明さん（87歳）



### 参加の動機

だじゃ研に参加した初期のころ、びっくりしたのは、楽譜らしい楽譜がないわけです。B4の紙1枚しかなくて、確か、1小節は音符があって、あとは絵が描いてあるだけ。「あれ？」って思いました。所属している合唱団とかバンドでは楽譜通りにしかやったことがなかったので最初は戸惑いましたが、だんだん面白くなって（笑）。初めて2014年の1010人※1に参加したとき（77歳のとき）は、足立市場という広い場所に演奏者を1010人集めて、観衆はその場の真ん中にも端にもいるし、演奏者もだんだん移動して。そんな面白いやり方、見たこともなかったので、おそらくだじゃ研に入れば、また別の面白いことができるんじゃないかって思って、その後参加したんです。

## 通いの場 紹介冊子（2022年度） 介護予防教室（2022-2023年度）

こもごも団がゆく！うめだサロンめぐりの冊子

こもごも団の「ラジオ演劇」こもラジオ

- ▶ 足立区梅田地域のサロン活動を紹介する冊子の制作
- ▶ 都内を中心に活動するアーティストなど5名によるグループ「こもごも団」が発足
- ▶ 地域内のサロン活動に通う方々の生活の中にある「悲喜交々」を伺い、冊子や演劇として発表。



## すみだ川アートラウンド ~ARTs×SDGsでつながる 隅田川流域の民間組織コレクティブ化構想 (2022年度~)

### 趣旨

SDGsの視点を持ち、コロナ禍を経て浮き彫りとなった社会課題をアートの力で解決していくために、隅田川流域の7区を活動領域とするアートNPO・団体が中核となって、これまでにない民間組織のコレクティブ形成を目指すプロジェクト。

#### (1) すみだ川アートラウンド・テーブル

Arts×SDGsの対話と実践計画作戦会議

#### (2) すみだ川アートラウンド・プラクティス

地域課題のテーマ：高齢化社会・子供の貧困・多文化社会)

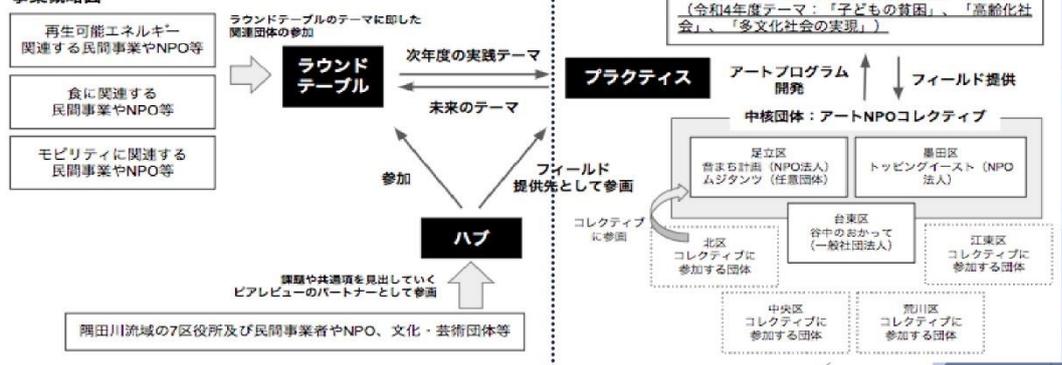
#### (3) すみだ川アートラウンド・ハブ

流域で活動する官/民の交流の場 官民それぞれの団体があつまるピアレビュー

## すみだ川アートラウンド・プラクティス

連携パートナー：地域包括支援センター関原  
プログラム提供：アートNPOコレクティブ

### 事業概略図



## 高齢福祉との連携：1年目

- ▶ 事前にあまり決め過ぎないこと
  - ▶ アート側の意図を押し付けない
- ▶ アーティストと定期的にサロン活動に通うこと
  - ▶ 関わる方々との関係性をつくること
- ▶ 通う経験の中からプログラムを立ち上げていくこと
  - ▶ 関係性をつくる過程で、プログラムを考える

## すみだ川アートラウンド（2022年） 劇団「うめはる」との協働プログラム

- ▶ プログラム：(一社)谷中のおかって
- ▶ 劇団「うめはる」は、認知症の方への対応方法を寸劇で行う劇団サロン
- ▶ 活動参加：7回
- ▶ 劇団「うめはる」のテーマ曲に講師が振り付けを考え、劇団のメンバーと踊り、動画にして発信したり、Sasa/Marie（ろうの詩人）を講師に招き、手話で童謡の「ふるさと」を歌うプログラムなどに取り組んだ。



## すみだ川アートラウンド（2022年-2023年） 野村誠と高齢者音楽サークル「梅田クラブ」 との音楽を通じた協働プログラム

- ▶ プログラム：野村誠+だじゃ研
- ▶ 梅田クラブ：生演奏やカラオケで懐メロ・唱歌・民謡を歌って楽しむ音楽サロン
- ▶ 活動参加：10回
- ▶ 梅田クラブの活動に定期的に参加。カラオケの伴奏などで盛り上げながら関係性をつくる。梅田クラブ5周年記念コンサートに出演し、劇団うめはるの寸劇をオペラ化した新作『オペラ座の買い過ぎ』を披露。



## 高齢福祉との連携：1年目を振り返って

- ▶ 高齢者の関係性を広げていくようなプログラム
  - ▶ 「いつも同じメンバーだとつまらないんだよね」
  - ▶ 「若い世代の方と出会うと気持ちが若返る」
- ▶ 体操・運動に文化的な要素を加えたプログラム
  - ▶ 自由な表現にはハードルがある
    - ▶ 技術・表現すること：「正解」への不安や戸惑い
    - ▶ 回ってきたマイクを回し続ける現象

# すみだ川アートラウンド (2023年) アートで多世代交流 Vol.1-Vol.3

## 実施概要

1回目：9月25日（月） 実施：谷中のおかって

2回目：11月27日（月） 実施：ムジタンツ

3回目：1月29日（月） 実施：LAND FES

時間：各回10-11時

会場：中部地域会議室（参加者が通い慣れている場所）

対象：包括関原と関係性のある高齢者（関係者）13名  
中部ひまわり保育園の児童（5歳児）13名

基本設計：共通のテーマ（リズム、歌、踊り）を使ったプログラム

# すみだ川アートラウンド (2023年) アートで多世代交流 Vol.1-Vol.3

## Row Your Boat 谷中のおかって



米国の童謡を用いたプログラム

## みんなでつくろう きらきら星体操 モーツァルト作曲 きらきら星変奏曲 八長調 K.265より ムジタンツ



作曲家モーツァルトの楽曲を用いたプログラム

## この素晴らしき世界 What a Wonderful World LAND FES



ルイ・アームストロング楽曲を用いたプログラム

- ▶ 既存の曲に、ベースとなる振り付けを作り、参加者と一緒に創作した振り付けを加えていくプログラム
- ▶ 始まり方／椅子の並べ方／グループの分け方／身体の可動域の違い／発表の時間をつくる

## 高齢福祉との連携：2年目を振り返って

- ▶ 「安心感」のある場所をつくる（ささやかな工夫が大事）
  - ▶ 名前呼び合える環境
  - ▶ 正解／不正解を感じさせないコミュニケーション（励まし合しあえる関係づくり）
  - ▶ 逃げ場がある（無理に参加させない／見ているだけでも楽しい）
  - ▶ 個々人の思いや不安に寄り添う場づくり
  - ▶ 「やっていいんだ」という意識につながっていく

ご清聴ありがとうございました



## キュレーターが 介護の現場に出会って考えたこと

インディペンデント・キュレーター 青木 彬氏

### キュレーターが介護の現場に出会って考えたこと



#### 青木彬

インディペンデント・キュレーター  
一般社団法人藝と  
一般社団法人ニューマチゾクリシャ

1989年生まれ。東京都出身。首都大学東京インダストリアルアートコース卒業。公共劇場での企画制作を経て現職。

アートを「よりよく生きるための術」と捉え、アーティストや企業、自治体と協同して様々なアートプロジェクトを企画している。

これまでの主な企画に、まちを学びの場に見立てる「ファンタジア!ファンタジア!—生き方がかたちになったまち—」ディレクター(2018~)、社会的養護下にある子供たちとアーティストを繋ぐ「dear Me」プロジェクト企画・制作(2018~2019) などがある。著書に『素が出るワークショップ』(2020,学芸出版)。

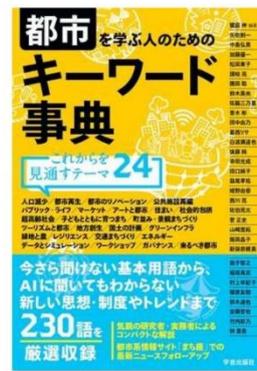
自己紹介

展覧会・アートプロジェクト



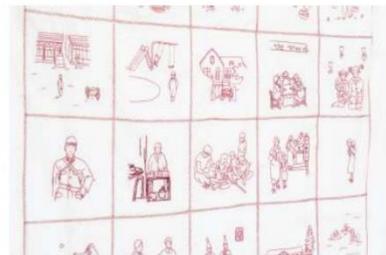
自己紹介

まちづくり・アートに関する執筆



# アートあ

ART ACTION by SOYOKAZE Co., Ltd.



左 上下：ワークショップ「トナリのアトリエ」  
中央・右 上下：展覧会『共に在るところから / With People, Not For People』

## ワークショップ？レクリエーション？

### ワークショップ？レクリエーション？

## 絵を並べて自分だけの美術館を作ろう！

「みなさんは〇〇美術館の館長さんです。  
ここに来るみんなを楽しませる展覧会を作りましょう！」



人をモチーフにした作品



色や形が特徴的な作品



地域ゆかりの作品





生活支援コーディネーター≡アートマネージャー？

生活支援コーディネーター⇨アートマネージャー

アートプロジェクトは縦割りだったものに横ぐしを刺す



切実な表現として受け止めること

切実な表現として受け止めること

## アートも介護もその人の尊厳を守ること







**social network**  
for community development

地域福祉におけるソーシャルネットワーク(SNCD) 2024